

1-1

基本関係代名詞（1）who と whom

基本の確認——「主格」と「目的格」をどう使うか

[1] 主格の who

whoは「主格」と呼ばれる関係代名詞であることをご存知の人は多いと思います。

主格ということは、whoの直後には「主語が欠けた形の文」、いい換えれば、「動詞が続く形」がくるということです。わかりやすいように視覚的に示してみましょう。●が主語の欠けた部分です。

名詞（先行詞） + who + ● V... 「V…する〈名詞〉」

関係詞節の中では、whoはVの主語に相当します。「主語」だから「主格」と呼ばれるだけのことです。用語にびくつくこともないですね。

関係代名詞whoの特徴、使い方をまとめると以下のようなになるでしょう。基本知識の確認もかねて目を通してみてください。

① whoの前=先行詞

☞ 「人」（または「擬人化」された動物など）を表す

② whoの後ろ ☞ 主語の欠けた文が続く

③ whoの省略 ☞ （原則として）不可

③の「省略」について、「原則として」という但し書きをつけたのは、第2章で扱う話に登場するからです。（英語から見れば）外国人学習者である皆さんが主格のwhoを省略した文を書いたり、話したりすることはまずないと思ってください。

- He has two sisters who live in Tokyo.

「彼には東京で暮している娘が2人いる」

✕ He has two sisters who ● live in Tokyo.

この文では、

- ① who以下の関係詞節が説明する名詞（=先行詞）は、two sisters
- ② who以下は、liveの主語が欠ける「不完全文」

となっていることが確認できると思います。今度は、次の日本語を英語で表すとどうなるでしょう。

- 「その交通事故で死んだ老人は84歳だった」

The old person who was killed in the traffic accident was 84 years old.

「交通事故で死んだ老人」は、「老人」を説明するのが、「交通事故で死んだ」の部分です。

✕ The old person who ● was killed in the traffic accident was 84 years old.

先にもふれましたが、もとを正せば、関係詞は2つの文からできているわけですから、あえて説明のために2文に分解してみます。

- ① The old person was 84 years old.

「その老人は84歳であった」

- ② The old person was killed in the traffic accident.

「その老人は交通事故で死んだ」

「老人」を説明するために、②のThe old personをwhoに代えて、①の